

福島認定ヨーガ療法士

浪江町〔福島森合〕仮説住宅談話室でのボランティア報告（2）

☆ 日時 平成24年1月21日（土）午後 13:30～15:00

☆ 場所 福島市森合仮説住宅談話室（警戒地域の浪江町避難者対象施設）

☆ 参加人数 松田自治会長（男性・73歳）1名

☆ 参加療法士 小野 幸子、紺野 きみ子、穴戸 正樹

☆ 状況 一年で一番寒いとされる暦の大寒らしく時折雨交じりの雪模様でとても寒い日となりました。エアコンと石油ストーブ、炬燵、ポッ

トのスイッチを入れさせてもらいました。時間になってもどなたもお出でにならないので、松田自治会長さんへ電話したところ、時間

を間違えていたとのことでしたが直ぐに来てくれました。お茶と果物を持参してお待ちしていましたが、結局お一人だけとなり、現在の生活状況をお聞きした傾聴ボランティアをさせていただきました。

☆ 内容

コンクリート汚染問題の関係で、仮設住宅に敷き詰められている敷石につ

いて仮設のすぐ近くのテレビ会社から早速取材があり、その対応をしたが汚染の広がりによって驚きの様子です。

敷地内の放射線量は毎時 0.3 マイクロシーベルトですが、碎石の出荷でも米とかの農産物のように、他県に福島県産の出荷が困難になるのではないかと心配です。

環境省の福島環境再生事務所が福島市に開所されたが、被災地の現場を本当に知ってもらうには浜通り地方に設置してもらった方が良かったかもしれ

ない。高線量地域では長時間の作業ができないので、いつ除染が終わっていつ帰還できるのかの目処を出してもらいたい。国はもっと被災地の現場を分

かって欲しいと話していました。

仮設住宅が終了する 2 年後の生活がどうなっているかが今一番不安です。

浪江町の住宅は、地震で被害を受けているため修理には相当な費用がかかり、実際戻れるのかどうか分からないので、ものすごく不安です。

巡回中の浜通りの双葉警察署の警察官が談話室に入ってこられ、一緒に話をされました。他の仮設住宅におられる避難者も除染の進み具合とか悩ん

でおられますが、雇用の問題が切実とのことでした。雇用保険も期間切れになり就職先が見つからない状態がいつまで続くのかと口々に不安を訴えると

のことです。早く浜通りに新エネルギー供給基地構想が実現すれば、新たな雇用の確保ができることになるのではないかと話されました。

他県から県内に戻った人達から聞くと、地元では原発事故の話は出ないとのこと。時間の経過と共に被害の風化が進んでいるのかもしれないとの

ことです。

＊感想

今回は 2 月 11 日（土）13:30～に来ることを説明しましたが、ポスターを張り出してもらうことが必要だと感じました。

辛いときには辛いと声を出してもらい、一緒に辛さを共有することが改めて大事だと感じました。（小野、紺野、宍戸）

報告 宍戸

